

《 刊行にあたって 》

近年、インターネットやスマートフォンなどの普及により、最新の歯科治療の情報を知り得る時代となり、患者さんのデンタルIQも向上しています。かつて患者さんは口コミで歯科医院を探していましたが、年々、近所付き合いも疎遠となり、インターネットで歯科医院を探す時代へと変化しています。実際、患者さんが治療を受ける歯科医院を検索する際、ホームページにはマイクロスコープやCTなどの専門用語が頻用され、精密な歯科治療への期待が高まっています。すなわち、これらの装置を用いない歯科治療は、患者さんに選ばれない時代へと変化しつつあるといってもよいのではないのでしょうか？

画像診断は、デンタルX線画像やパノラマX線画像などによる二次元的な診断から、歯科用コンビームCTによる三次元的診断が可能な時代となりました。1回の撮影での情報量が増えることで診断の限界が大きく変わり、精度が飛躍的に向上しています。

歯科でのマイクロスコープの導入は、歯根端切除術から始まり、いまや保存修復、補綴治療、歯周治療、口腔外科、インプラント治療、小児歯科など、ほぼすべての歯科治療に応用されているといっても過言ではないほど普及しているのが現状です。歯科治療は、手探りの治療からマイクロスコープの導入により、明るく拡大して見ながらの治療へと変化しました。精密歯科治療では、いままで肉眼では治療することが難しかった症例でも治療可能となるケースが年々増加しています。しかし、マイクロスコープ下での歯科治療は、治療部位を直接観察しながら治療できるケースに限られます。多くの精密歯科治療がサーフェイスミラーに映った像をマイクロスコープで観察しながら治療するため、観察はできても見ながら治療するにはそれ相応のトレーニングが必要です。

マイクロスコープを用いた精密歯科治療の書籍は、これまで歯内療法を中心としたものが多く、すべての歯科治療を網羅したものは、ほとんど刊行されていないのが現状です。そこで、本書『精密歯科治療 ここまで来たか！ マイクロスコープいろいろ活用術』を企画いたしました。

本書では、精密歯科治療を8章(chapter)立てにし、各治療分野の第一線で活躍されている専門家に執筆を依頼し、拡大視野がもたらすベネフィットを詳細に解説していただきました。これから精密歯科治療を始める歯科医師、実践する精密歯科治療の分野を広げたい歯科医師のマイクロデンティストリーの最新ガイドとしてご活用いただければ幸いです。

最後に、ご多忙にもかかわらず快くご協力くださり、限られた紙面にご執筆いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

2023年9月吉日

北村和夫